



セルモ西北軍、東北軍が大部分赤化シ暴力ヲ以テ聯蘇容共ヲ強要シテ居  
リ又國民ノ中ニハ日本ニ對抗シ得ル國ナラ如何ナル國トモ提擧スベシト  
唱フル者鮮カラザル折柄第三次中央執行委員全體會議ニ如何ナル議案ガ  
出サレ如何ナル議論ガ展開サレ如何ナル議決ガ採擇サルルヤハ全ク豫斷  
ヲ許サナカツタノデアアル。

而シテ民國ニ於テハ變ニ西南事件ノ圓滿ナル政治的解決アリ最近ニハ百  
靈廟ノ奪回アリ士氣旺盛ナルトキ權モ日本ニハ二、二六事件ノ不祥事漸  
ク其ノ措置ヲ終リタル許リデ内治ニ外交ニ多事ナル上ニ廣田内閣ノ總辭  
職ト後繼内閣ノ難産等政情可ナリ複雑ナルモノアリ、若シヤ此ノ機會ニ  
民國側ニ於テ日本ニ對スル認識ヲ再ビ誤ツタナラバ九、一八事件ヲ契機  
トシ尖锐化セル兩國感情ノ爆發ヲ導ク虞ナキヲ保シ難キモノアリ、又幸  
ニシテ彼此互ニ認識ヲ改メ兄弟ノ誼ヲ重ンズルニ至ラバ永年蓄積シ亂レ

纏レル紛糾モ漸次水釋スル可能アリ干戈ヲ化シテ國帛ト爲ス事ヲ得ル望  
ガアルノデアアル、是日華外交ガ一大轉換期ニ直面セル事ヲ思ハシムル所  
以デアアル。

而シテ私ハ三十ニシテ始メテ帝國ノ臣民トナリ爾來四十數年新附ノ民ト  
シテ過分ナル恩寵ヲ蒙レルモノデ常ニ報效ノ一端ヲ盡ス可ク心構ヘ民國  
要人トハ種々ナル機會ニ交際ヲ續ケテ來テ居リマス關係上互ニ打解ケテ  
語ヒ談笑ノ間ニ大事ヲ論議シ得ルノ便宜ガアリマス。加フルニ昭和九年  
末ヨリ十年ニ於テ民國ニ渡航シ蔣、汪其他ノ政府要人及江浙財閥ト隔意  
ナク意見ヲ交換シタノデアアルガ其節第一ニ膨脹日本ハ侵略綱ニ非ル事、  
第二ニ兩國國民ガ滿洲ヲ過大シ兄弟ノ義ヲ忘ルルハ東洋道德ニ反スルガ  
故ニ宜シク眼界ヲ廣クシ共產露西亞ヲ共同目標トナシ對立關係ヲ離レテ  
同一方向ニ向フ可キ事、第三ニ經濟提携ヲ促進シ共ニ東洋平和ヲ維持ス

可キ事等ヲ説得シ爾來賢明ナル兩國當局ノ努力ニ依リテ大使ノ交換、經濟使節、外交使節ノ來朝、台灣、福建ノ經濟提攜、中支那ノ對日貿易進展トナツタノデアル、斯クノ如キ經驗ガアルカラ專門家ニ非ザル私ガ敢ヘテ再ビ國民外交ヲ試ム可ク決心シタル所以デアリマス。

茲ニ多數友人トモ充分ナル磋商ヲ遂ゲ議會ノ休會中ヲ利用シテ二月八日神戸ヲ出帆十日上海着彼地デ各種ノ工作ヲ終ヘテ三中全會ノ終ラントスル二十一日ニ南京ニ入り、二十四日迄滞在シテ上海ニ出デ乍不充分懇ニ客トシテノ儀禮ヲ盡シテ三月三日上海ヲ出帆、歸朝五日神戸ニ入港、此間約一ヶ月ノ旅程ヲ終ヘタノデアリマス。

0393

記 事

豫定ノ通り二月八日長崎丸ニテ神戸ヲ出航、十日上海港外ニ於ケル濃霧ノ爲メ四時間遅レテ午後七時入港多數關係者ニ迎ヘラレ張嘯林氏（江浙財閥ノ巨頭）ノ秘書ニ伴ハレテ兼ネテ手配サレタル「滄州ホテル」ニ入りマシタ、當日ハ舊曆ノ大晦日ナガラモ張氏ハ八時ニ來訪セラレ私ノ多忙ナル渡支ニハ必ズヤ重大ナル目的アルベシトテ來意ヲ叩カレマシタ私ハ先年彼地デ世話ニナツタコトニ付キ厚ク御禮ヲ述べタル上

「日本ノ政情聊カ安定シ國論ノ統一シタル事

「林内閣成立シタル機會ニ對華外交ニ付キ一大轉換期ニ直面セル事

ヲ指摘シ若シ三中全會ガ前空氣ヲ其儘反影シ民衆ノ極度ナル抗日排日ノ思潮ガ全會ニモ現ルル事アラバ爲メニ日本側ニ對シ徒ラニ惡印象ヲ與ヘ其對支方針ヲ不利ニ導ク恐レアリ、此激烈ナル對日感情ノ緩和ニ協力セ

0394

ラレタキ事ヲ依頼シマシタガ舊知ノ間柄デモアリ好ク引受ケラレマシタ。  
翌十一日午前十時半張嘯林氏杜月笙氏一統年賀ニ來ラレ此等ノ者ニ伴ハ  
レテ蔣介石氏ヲ私邸ニ訪問シマシタ。歸リニ張杜兩氏ニ年賀ヲ爲シ長時  
間歡談其場デ湯淞滬警備司令始メ江浙財閥ノ要人等ニ久シ振リニ面接シ  
マシタ。

外出中ニ王 曉 籟 錢 永 銘 李 樾 一 氏 等 ノ 來 訪 ア リ タ レ バ 此 等 ノ 者 ニ  
答 訪 旁 敬 意 ヲ 表 シ マ シ タ 、 幸 ヒ ニ モ 陳 儀 氏 ガ 十 日 三 中 全 會 出 席 ノ 爲 メ ニ  
來 滬 サ レ タ ノ デ 早 速 連 絡 シ タ ラ 氏 ハ 夕 刻 來 訪 來 意 ヲ 叩 カ レ マ シ タ 。

氏ハ周ク知ラレテ居ル通り親日家デアルカラ私ハ詳細ニ日本ノ政情ヲ説  
明シタル後

「民國ニ於テ隣國ノ誼ヲ以テ互惠的ニ關稅ヲ改正シテ兩國ノ交通貿易ヲ  
便ナラシメ

「列國ニ比シテ最モ先ニ日本ヨリ提案サレタル飛行協定ノ協議締結  
ニ共同防共ニ對スル用意

ヲ有セラルルナラバ其實行ニ就テハ自ラ先後ハアルモ若シ此等ノ事ガ容  
レラルトスレバ日本側ニ於テモ具體的ニ民國ニ對シ好意ヲ具現スルノ  
可能アルコトヲ説キタリ、此三件ハ日本ノ最モ希望スルトコロデ而モ何  
レモ民國ノ利益ニ反セズ却ツテ民國ノ福祉ヲ増進スルモノデアルカラ蔣  
氏外中央執行委員方ニ可及的ニ廣ク傳ヘラレ度キ旨依頼シマシタ。

又當日ノ新聞報道ニ依レバ西北側ノ中委ハ冀東政府ノ取消、塘沽協定ノ  
破棄、察北六縣ノ回收等ノ議案ヲ全會ニ提出セントスルノ報アリ、又某  
消息通ノ語ルトコロニ依レバ西南側ニ於テモ同様ナル提案ノ外聯露抗日  
ノ提案アルベシトノ報アリ、三中全會ノ前空氣ハ豫覺シタル通り誠ニ激  
烈ナルモノガアツタノデアル、サレバ早速人ヲ遣ツテ林森氏ニ連絡ヲ執

「共產主義ハ「無父無君ノ教」デ我東洋道德ニ反スル而シテ共產俄國ト  
國際共產トハ一物ノ二面ナリ、故ニ聯露ハ直チニ容共ノ結果ヲ齎ス危  
險充分ナリ、抗日ハ國民ノ意氣ヲ示スモノトシテ其ノ良惡ハ暫ク論議ヲ  
避クルモ抗日ノ爲メニ國民道德ヲ破壊スルハ角ヲ矯メテ牛ヲ損スルノ  
類ナリ、老成人宜シク其提案ヲ撤回セシムル様ニ努力セラルベシ  
トノ旨ヲ通ジタリ而シテ全會前ニハ此等ノ提案ハ美事喰止メタト報セラ  
受ケテ聊カ氣ヲ強クシタノデアリマス。

十二日正午李釋一氏ノ招待宴ニ臨ミ

李、陳兩氏ト鼎座シテ來意ト日本側ノ希望ヲ略述シタガ兩氏トモ

聲ヲ勵シテ云ハルルニ

「日本ハ冀東政府ヲ利用シテ公然電稅シテ居ル此ナラ何モ關稅改正ヲ要  
求スル必要モ無カラウ

「日本ノ飛行機ガ勝手ニ華北ヲ飛過ツテ居ル、此以上飛行協定ノ必要モ  
ナカラウ、若シ日本ニ於テ米國ノ飛行機ガ勝手ニ飛ンダラ日本ハ如何  
ナル措置ニ出デルカ

「又察北六縣ニ兵ヲ入レテ共同防共サレタ日ニハ民國ハ國家ナリトシテ  
ノ體面ガ保テヌデハナイカ、最近民國人ハ大イニ日本ヲ研究シテ居ル  
一寸シタ日華親善論デハ徒ラニ論争ヲシテ實質ナク之ニ傾聽スル者ガ  
ナイ、日本ニ於テハ勿論民國ニ理解アリ同情アル方モ多カラウ併シ體  
シムラクハ此等ノ考ニハ權力ガナイ、又日本ハ信義ヲ守ラヌ列ハ塘沽  
協定ハ單ナル軍事協定ナルニ拘ラズ日本ハ又勝手ニ政治的工作ヲ華北

ニ加ヘテ居ル此調子デハ百ノ親善論アルトモ何等役ニ立タヌデハナイ  
カ、先生願ハクバ晩節ヲ汚サヌ用腎ニ何モセズニ日本ヘ歸ラレタ方ガ  
萬全ダラウ、見ヨ當地ノ所謂親日家ノ末路ヤ如何ニ、汪精衛、唐有任  
楊永泰、黃郛ハ如何ナリマシタカ此等ノ者ハ中日親善ノ無欺ナル犠牲  
ニナツタデハナイカ

0399

トノ論旨デ測ラレテ失望セン許リニ力ヲ落シマシタ、此等所謂親日家ノ  
議論如ストスレバ英米派親露ノ議論如何ハ思ハセラレマス、ソレデ其ノ  
席デハ大體感情ノ緩和ニ務メタ丈ニ止メマシタ。而シテ後陳儀氏ニ會見  
ニ來ラレタ四川省ノ國家主義者曾琦林、可幾氏等ニ簡單ニ東亞大局ヲ論  
ジ合ツテ別レ「ホテル」ニ歸リマシタ。

而シテ午後六時陳儀氏來訪セラレ同様ナル議論ニ花ヲ咲カシタノデアアルガ  
一、民國ガ關稅制定ニ付キ英米人顧問ノ云フガ儘ニ從ヒ日本ノ立場ヲ念中

10

置カヌカラ所謂冀東ノ稅稅デ報ヒラレタノデハナイカ日本ハ何モ英米  
ノ眞似ヲシテ經濟侵略ヲ試ミントスルノデハナイ、經濟提携モ強要セ  
ヌ、若シ民國ニ於テ合作ヲ求メラルル事アラバ應ズル用意アルノミデ  
アル、又關稅制定ニ付キ日本ヲ英米ニ比シ實質ニ著シク不均衡ニスル  
必要モナイ様ニ思フ此ハ民國ノ所謂互惠平等ノ原則ニ反シナイカ

0400

ニ最モ先キニ提議シタル飛行協定ニ應ジヌカラ自由飛行ノ結果ヲ齎シタ  
ノダ、協定ニ應ズレバ互ニ權利トシテ相互ニ對手國內ニ飛行ガ出來ル  
デハナイカ何モ自由飛行結構ナリト謂フノデハナイガ民國側デ協定ニ  
應ズル誠意アラバ自由飛行モ絶消スルニ至ラウ。

ニ共同防共ハ主義上同意ヲ求ムルモノデ何モ日本兵ガ民國ノ領土内デ活  
動スル事ヲ意味スルモノデハナイ、各自ニ防共ノ實ヲ舉ゲル事ヲ望ム  
ニ止マル

11

事ヲ力説シタル後此等民ニ有益無害ナル日本側ノ希望ヲ容レラルル用意アルニ於テハ日本ニ於テモ民國ニ對スル好意ヲ具現スル可能性充分ニアル事ヲ暗ニ強調誘引シマシタ。

而シテ陳儀氏ハ納得シタルガ如ク見受ケラレ努力シテ見ルト約シテ歸ラレ翌朝南京ニ入ラレマシタ。

十三日本田、沖野兩武官ト會見今迄ノ經過ヲ述ベタル後此惡空氣打開ニハ此際先ヅ日本側ヨリ先ニ好意ヲ示スニ非レバ到底成功ノ望ミナシトノ見方ニハ意嚮一致シマシタ、而シテ從來親日派ニノミ頼ツテ外交ヲ爲スノ不充分ナル事ヲ發見シタノデアルガ余ハ江浙財閥ガ國民政府ノ原動力デアリ其ノ背景デアルモノト觀察シ對日好轉ヲ嚮スルニハ此等ノ者ニ主力ヲ導クベシト意見ヲ開陳シタル所幸ニモ兩武官同一見解ヲ持タレテ居ルノデ幾分活路ヲ發見シ得ル光明ヲ認メタノデアリマス。ソコデ張、杜兩氏トハ再々會見シテ意見ヲ交換シ陳儀氏ト討論シタルト同様明確ニ話

12

0401

ヲ進メ彼ト交遊スル者ニ廣クソレトナシニ傳ヘ新シキ明朝ナル空氣ノ注

0402

入ニ努力シマシタ。

十四日張群外交部長カラ上海辦事處宛ニ三中全會ノ終了ヲ俟チテ入京セラレ度旨竝ニ其間用アラバ周主任ニ於テ可然取計ハルル電報ガ入りマシタ、蔣作賓氏、陳儀氏カラモ同様ナ電報ガ入りマシタ、而シテ十四日カラ二十日迄デハ本田武官、河相總領事、喜多武官ト時々會見シテ意見交換ヲ爲シ種々協議ヲ爲シマシタガ果セルカナ三中全會ノ前空氣トシテ當然提出セラル可キ華北主權回復ニ關スル三提案竝ニ聯露抗日案ハ見事ニ喰止メラレ反對ニ主席團ノ赤禍防止案トシテ現ハレ我々ノ希望スル共同防共ノ一端ガ可決セラルルニ至リタルハ誠ニ同慶ノ至リト云ハナケレバナラヌ、是レ共產主義ニ反對セル江浙財閥ノ暗躍、福建系ノ林森氏、陳儀氏等ノ努力ニ貢フ所ノ大ナルヲ覺ユルノデアリマス。

13

而シテ大會ノ閉幕ヲ豫定サレタル二十一日早朝上海ヲ出發南京ニ入り楊  
虎城氏ノ副官、張群氏代表丁紹級氏、高亞洲司長代表孫氏ニ迎ヘラレ蔣  
鼎文氏ノ好意ニ依リ其ノ部屋ヲ讓受ケテ漸ク一室ヲ得マシタ。全會更ニ  
一日延期ニナツタノデ當日ハ蔣作賓氏、翌日午前中ニハ汪、張、高、吳  
等ヲ訪問敬意ヲ表シ續イテ川越大使ヲ訪レテ種々意見交換ヲ爲シマシタ  
午後四時全會ノ終了直後張群氏ト外交部長室ニ於テ會見氏ハ開口一番  
此度辜老先生ハ中日外交ノ爲メニ熊々來朝サレタ事ハ我々トシテ大イニ  
歡迎シマス、先生ハ常ニ中日兩國ノ外交ニ骨折ツテ居ラレル事ハ種々ナ  
ル情報ニ依ツテ承ツテ居リ我々トシテ誠ニ感激感佩シテ居リマス。御來  
旨ハ詳シク陳儀主席カラ聞キマシタガ先生カラ直接又一度承リタイト希  
望サレタノデ陳儀ニ話シタル事柄ヲ更ニ一度申述ベレバ張氏へ御議論一  
一尤デアル、只共同防共ニ就テハ民國ノ現状ヲ以テシテハ應ジラレヌ其  
ノ理由ハ

0403

一 國民ノ間ニ容共聯露抗日ノ説ガ盛ニ行ハレテ居ル折柄日本ト共同防共  
ヲ議スル時ハ徒々ニ内戦ヲ激發スル恐レガアリマス。  
二 防共ハ國內問題デアル、ト云ツタカラトテ我々ハ剿匪計畫ヲ棄テタ譯  
デハナイ  
三 日本ハ當面ノ問題ヲ議スルニ尙躊躇シ居リナガラ我々ニ根本問題タル  
共同防共ヲ提案スルノハ順序デナイ、排日絶滅ノ要求モ同様ナモノデス。  
續イテ段々ト興奮シタ面持チデ中日兩國ノ國交ガ斯クノ如ク悪化スルニ  
至ツタノハ九、一八ヲ以テ契機ト爲スモノデアル、滿洲國ガ自己ノ意志  
ヲ以テ成立シタノダト云フノハ未ダシモ冀東政府ガ自發的ニ出來タト云  
フノハ言語同斷デハナイカ、又日本陸軍ノ飛行機ヲ華北デ亂レ飛バシテ  
居ルソノ上ニ熱河ノ軍隊ガ察北ニ侵入シテ勝手ナ行動ヲ執ツテ居ル。  
此ガ排日抗日ヲ唆シテ居ルノデハナイカ斯ル狀態デハ政府ハ排日抗日ヲ  
取締リ得ナイデハナイカ。

0404



日本ニ於テ經濟提携ヲ唱ヘナガラ冀東ノ脫稅デ民國經濟ヲ壓迫シテ居ル、不侵略ヲ唱ヘナガラ自由飛行デ國民ニ脅威ヲ與ヘテ居ル、此狀態デハ日本デ要求サルル對支三原則ノ協議ニ應ジラレル筈ハナイ固ヨリ我ニハ中日國交ノ全面的調整ヲ望ムモノデ日本ヨリ滿洲問題ノ解決ニ付キ提案サルルナラバ我々ハ大イニ歡迎シマス、若シ日本ニシテ滿洲問題ノ如キ厄介ナル問題ヲ暫ク預ケルナラソレデモ差支ハナイ外交ヲ暫ク休止スルナラソレモ贊成デアアル、若シ民國ノ去ル九月二十三日提出シタル五ヶ條ノ要求ニ就イテ協議セラルルナラバ我々トシテモ悦ンデ目前ノ問題ニ就テ御相談ニ應ジマセウ、昨年外交交渉ヲ初メタ際日本ハ成都事件ヲ切掛ケニ所謂對支三原則ノ承認ヲ要求サレテ居ル我々ハ眼前ノ問題五ヶ條ヲ提出シタルニ對シテ日本側ハ我々ニ根本問題ノ解決ヲ迫リ此ヲ承認シタルニ非レバ我々ノ提案ニ付キ協議ニ應ズル用意カナイトノ事デシタ、此デハ死デ外交ニナツテ居ナ

イ、結局我々トシテハ中日兩國ノ國交ニ付キ滿洲問題カラ全面的調整ヲ希望スルモノデアアルガ若シ日本側デ滿洲問題ニ觸レル事ヲ避ケタケレバ目前ノ問題ヲ解決スル爲メノ協議ニ應ズルニ吝カデハナイト云ヒテ意氣軒昂ナルモノガアツタ、此ニ對シテ余ハ、御説克ク承リマシタ兩國ノ國交ガ斯クモ悪化シ民國ニ於テ排日抗日ガ熾烈ニナツタ事ガ九、一八ヲ楔機トスルガ如キ御議論デアアルガ私ハ排日抗日ガ餘リ熾烈ナリシ爲メニ九、一八事件ヲ惹起シタノデアルト思フ然シナガラ滿洲ニ對スル日本ノ見解ト民國ノ見解トノ間ニ非常ナル徑庭ガアルガ公平ナル眼ヨリ見レバ民國ハ古來滿洲ニ完全ナル主權ヲ享有スルコトナク清朝末ニハ露人ノ侵略ニ任セテ居タノデアアル、コレニ對シテ日本ハ義兵ヲ出シ傾國的一戰ヲ試ミタル結果聯ト之ヲ奪回シテ清國ニ返還シタノデアアル若シ日露大戰ノ戰捷ナカリセバ滿洲ノミナラズ露國ハ關内ニ迄侵略ノ手ヲ延シタノデアラウ、其

ノ後ハ張家父子ノ忘恩的態度ト排日ト失政トニ依リ九、一八事件ヲ惹起シタノデアルガ現滿洲國ハ獨立シタル國家トシテ存立シ居リ日本ハ何モ之ヲ其ノ領土トシナカツタノデハナイカ、而テ其ノ國ヲ形成スル人民ハ三千萬ノ中二千五百萬ハ漢民族デアラカラ民國トシテモ之ヲ諒トスベキモノト思フ、此事ニ就テハ一昨年楊永泰ト一ヶ月ニ互リ討論シタル結果楊氏ノ云ハルル様ニ滿洲問題ハ儘モ長江中ニ突然出來タ暗礁ナリ若シ船頭ニシテ之ヲ迂廻（轉灣）シテ通ラザルニ於テハ人船供没スルノミ一故ニ余ハ兩國ハ餘リニ滿洲問題ナル利ヲ争フテ兄弟ノ邦ナル義ヲ忘レ鵲蚌相争ヒテ漁夫ニ利ヲ得セシムルヨリモ兄弟牆ニ闘グトモ外ニ侮ヲ禦グ可キデアル我々ノ共同ノ敵人國際共產ヲ共同目標ト爲シ對立關係ヲ清算シテ同一方向ニ向ハシメタラバ互ニ國民感情ヲ緩ゲ漸次國交ヲ回復スル事ガ出來ルデハナイカトノ提案ニ對シ兩國政府共ニ之ヲ容レ北ニ大使ノ交換

南ニ福建浪人ノ解決經濟連絡貿易ノ伸長等相當ナル實績ヲ擧ゲタルニ拘ハラズ其ノ後ハ雙方ノ錯誤ニヨリテ更ニ華北問題ヲ惹起シタルハ誠ニ山ヲ爲シテ九仞ノ功ヲ一篲ニ缺クノ類デアアル、其ノ後私ハ一年有餘病床ニ臥シタノデアアルガ最近議會出席ノ爲メ東京ニ出テ見レバ日本ハ現在内治外交共ニ一大轉換期ニ近ヅケル事ヲ觀取シタノデアアル、從來稍モスレバ外部ニハ陸海軍外交三部ノ意見一致セザルニ非ルヤト見ユル空氣モ消滅シタルノミナラズ國民ノ輿論迄ガ統一シタル方向ニ向キツツアリマス又民國側デ克ク嘆カルル如キトハ正反對ニ現在ニ於テハ民國ニ理解アリ同情アル者ガ局ニ當ツテ居リマス此ハ林内閣ノ議會ニ於ケル施政方針外交方針ノ演説ニ徴シテ明カデアアル、茲ニ於テカ民國ノ三中全會ガ若シ前空氣ノ如クニ對日惡感情ヲ表明シ國民ノ抗日意識ヲ激スルガ如キ事アラバ此等民國ニ理解同情アル日本政治家ニ惡印象ヲ與フルノミナラズ延イテ民

國ニ有利ナル事ヲ決行スル上ニ於テ障礙ニナルベキモノト思ヒ諸公ニ三  
中全會ノ空氣緩和方ヲ御依頼シタノデアアルガ幸ヒニモ諸公ノ努力空シカ  
ラズ圓滿ニ本會ヲ終ヘラレタ事ハ病ヲ冒シテ訪レタ私ハ之ヲ深く感謝シ  
厚ク敬意ヲ拂フモノデアアル、併ラ滿洲問題ハ厄介ナ問題ナル事ハ私モ同  
感デアアル故ニ解決シ易キ事柄迄之ヲ滿洲問題ニ關連シテ處理セントスル  
事ハ賢明ナル政治家ノ或ル道デナイト思フ、若シ民國ニ於テ互惠平等ノ  
原則ニ依リテ關稅ヲ改正シ兩國ノ經濟發展ニ資シ飛行協定ヲ締結シテ兩  
國ノ交通ヲ便ナラシメ心裡的ニ防共ノ協力ヲ爲スノ誠意アラバ或ハ日本  
ニ於テ近ク何等カノ方法ニ依リ民國ニ好意ヲ具現シ民國ニ有益ナル事柄  
ヲ爲スノ可能性ガ充分ニアリマス、若シ其ノ時機ニ至ラバ民國ニ於テ之  
ニ呼應スル丈ノ用意ヲシテ欲シイモノデアアル斯様ニシテ互ニ感情ヲ融和シ  
漸次接近スレバ懸案ハ易キヨリ次第ニ解決サレル事ト思フ、民國側デ云

フ冀東ノ脫稅ヨリモ互惠關稅冀察ノ自由飛行ヨリハ飛行協定ヲ撰ブ事ガ  
賢明デハナイカ、又共同防共ニ就テモ決シテ直ニ協定又ハ條約ヲ結ブト  
云フソレハ心裡的ノモノデアアル一例ヲ擧ゲレバ貴國デ喧シクシテ活ル察  
北ノ熱河兵ノ移動シタ後へ赤軍ヲ入レタラ我々ハ瀾丸潰レトナリ再ビ日  
華外交ヲ論ズル機會ヲ失フニ至ルデアラウ。  
此ニ對シテ張外交部長ハ徐ロニ答ヘテ曰ク、關稅ニ就テハ我々ニ自主權  
ガアルカラ日人顧問ヲ容レル事ハ難シカラウガ日本ノ立場ヲ考ヘテ制定  
改正スル事ハ可能デアアル、飛行協定モ考慮シヨウ熱河軍ノ後へ赤軍ヲ入  
レル様ナ事ハ日本側ノ口實ナランモンナ事ハ日本ヨリモ我々ノ方ガ苦  
手デアアル只日本側ニ於テ直ニ華北ノ工作ヲ止メテ貫ヒタヒ、互ニ一件ツ  
ツ處理シテ行ツテ差支ハナイト。  
依ツテ張氏ノ腹裡ヲ察スルニ

一 冀東政府ノ取消ニ對シテ關稅ノ自主的改正

二 自由飛行絶滅ニ對シテ飛行協定ノ締結

三 熱河軍引揚グルトモ赤軍又ハ赤化勢力ヲ入レザル事

此等ノ事ハ三中全會ヲ機會ニ要人間ニ於テ相當論議サレ一致シタル意見ノ開陳ト見ラレマス、此會見ニハ午後四時ヨリ五時半迄約一時間半ヲ要シ充分ナル意見交換ヲ遂ゲタノデアリマス。

當夜ハ中國銀行經理吳震脩氏ニ招待サレ梅蘭芳ヲ觀劇シマシタ。

翌二十三日朝馮玉祥氏ヲ訪レタガ留守デシタ歸途ニ中國銀行ニ吳震脩ニ答禮旁會見張部長トノ會談ヲ詳シク述タルニ對シ吳氏大イニ日本ノ立場ヲ諒トスルモ經濟提携ニ付キテハ民國ガ更ニ一段ト建設シタル後ニ非レバ車ノ兩輪ノ一ツガ小ニ失シ運用ニ差支アルベシトノ見解ヲ持タレルニ對シ余ハ日本ハ今英米ヲ眞似テ民國ニ對シ經濟侵略ヲ試ミントスルモノ

22

デハナイ若シ民國側デ協力ヲ求メラルルニ於テハ相當援助スル迄デアアルトノ説明ニハ満足シタル模様デアリマシタ、話間吳氏ハ國民政府ノ當面ノ問題トシテ長城主權ノ確保ニアリト云ハルル點ヨリ察スレバ華北サヘ解決スルニ於テハ滿洲ニ付キ主權ヲ主張セザルノミナラズ日本ノ敍上三

0412

要求ニ應ズル事ヲ示唆スルモノニシテ大イニ注目ニ値ヒシマス、氏ハ汪氏ノ直系デ話ノ趣旨ヲ直ニ汪ニ傳エラルベキ事ヲ約セラレマシタ。

而テ午后二時頃汪精衛氏ハ自ラ電話ヲ以テ六時曾宗民氏邸ニ於テ會見セラルベキ事ヲ申越サレタノデ行掛ケニ何應欽氏ニ敬意ヲ表シ五時半汪氏ヲ訪レマシタ、氏ハ先年會ツタ時ニ比シ幾分瘦セタ様子ハアルガ健康状態ハ良イ様デシタ、汪氏謂ハルルニハ

汪 辜先生ハ又遠途ヲ厭ハズ再ビ來朝サレテ中日兩國親善ノ爲メニ奔走

サレル事ハ御熱心ノ程我々トシテモ誠ニ感激感佩ニ堪エマセヌ

23

0411

余 最近日本ニ於テハ政情殆々安定シ國論モ統一シ内政ニ外交ニ一大轉機ヲ期セラレテ居リマス機會ニ内閣ノ更迭アリ時ヲ同ジクシテ貴國ニ於テハ三中全会ガ踴躍セラレタルノデアアルガ彼此議論ノ模様如何ニ依ツテハ互ニ影響スル所大ナル可キヲ慮リ病ヲ押シテ渡來シタノデス、幸ニシテ林内閣ノ外交方針モ貴國ニ於テハ好感ヲ以テ迎エラレ貴國ノ三中全会モ前空氣ガ殆々雲消シタル事ハ兩國ノ爲メニ慶賀ニ堪エナイ次第デアリマス

0413

汪 誠ニ有難イ、此事ハ克ク張國焜ニ話サレタ事デセウネ  
余 然リ詳シク會談シマシヨ

汪 誠ニ結構デス張國焜ノ意見ハ即蔣行政院長ノ意見デス日本ノ政治家方ニ宜シク御傳ヘヲ願ヒタヒ此度ノ三中全会ノ宣言ハ御覽ニナツタ事デセウソレハ私一人デ起草シタモノデ議決ノ時ニ多少字句ノ修削

24

ハアツタ丈デス、御覽ノ通り外交方針ハ依然變リハアリマセヌ共產主義ハ從來通り撲滅ニ努メル事ニナツテ居マス後ノ部分ハ凡テ民國ノ經濟建設ニ關スル事許リデ何レモ極メテ穩健デス、日本ニ歸ラレタラ近衛公爵、米内海相始メ政治家各位ニ宜シク御傳ヘヲ願ヒマス  
余 承知シマシタ蔣介石氏現在健康如何ニ折角ダカラ健康ノ許ス事ナラ一寸御目ニ掛リタイ

0414

汪 有難ウ背骨ノ病氣デ長座ガ出來ナイ様デス大會ノ最終日一時間出席シタ爲メニ又腰付カレマシタ私カラ宜シク御傳ヘ申シマス若シ御滯在中ニ健康ガ許セバ張國焜ガ連絡シテ會見サレル事ニ致シマセウ蔣先生ハ今デモ未ダ仕事ヲ視テ居ラレマセヌシ律義堅イ方デスカラ腰臥ツテ遠來ノ客ニ會フノハ却ツテ失敬ダトシテ遠慮サレル事ト思フ併シ張國焜ノ意見ハ即蔣先生ノ意見デスカラ仕事ノ爲メナラ其ノ儀

25

ニ及ビマスマイ

トノ事デ互ニ健康ヲ祝シテ別レントスル時玄關先送送ラレテ其ノ節ハ老  
先生ハ大變關心ヲ持タレテ誠ニ有難イトテ遭難當時ノ事ヲ思出テ厚ク感  
謝ノ意ヲ表セラレマシタ、會談約四十分汪氏ノ行臺ヲ辭シテ外交部亞州  
司長高宗武氏主催ノ晚餐會ニ臨ミ舊知ノ蔣作賓氏外交部司長等始メ多數  
陪席ノ方々ト會見ノ機ヲ得マシタ、九時宿ニ歸レバ蔣內政張外交兩部長  
連名ノ招待狀ニ接シタカ何分ニモ出發ノ用意ヲ整エタトテ電話デ辭退シ  
タラ出發間際ニ大使館ノ車ト前後シテ丁參事官現ハレ頻ニ引留サレマシ  
タ、ソレハ民國ト日本トハ招待ノ儀禮ヲ異ニセル事（豫メ約束シテ招待  
スル事カ反ツテ失敬ダトノ習慣アル事）萬一招待ヲ辭セラルルニ於テハ  
國民政府ノ面目ニモ掛ハリ新聞記者ニ誤傳サレテ儲モ兩國ノ間ニ重大ナ  
ル事件ガ突發シタカノ如クニ思ハレテハ大變ナ結果ニナルカラ是非旅程  
ヲ延サレ度キ旨縷々述ベラレタノデ更ニ一日南京ニ滞在シマシタ

26

0415

二十四日正午外交部長官舎ニ至リ張、蔣二氏ノ招待ヲ受ケマシタ席ニ入  
ル前ニ

0416

張氏 私ノ外交部長ハ今日限りダ今晚發令ニナル事ト思フ辜先生又二、  
三日南京ニ居ラレレバ後任ノ王寵惠氏ニモ會ヘマス。

蔣氏 併シ克ク能メサシテ呉レルネ。

張 其處ハ外交サ、辜先生水ク南京ニ居ラルナラ梅蘭芳デモ見テ待ッ  
テ居ラレルノモ恐クナイデセウ、テナカツタラ上海デ是非王先生  
ニ御會ヒ下サイ。

辜 承知シマシタ、上海デ會ヒマセウ。梅蘭芳モ餘程前カラ能メルト  
カ云ツテ居マシタネ、所ガ人氣が良イト仰々世中ガ能メサシテ吳  
レマイ、コレモ外交デスカ。

27

ト云ヒテ滿場突聲ガ響キマシタ。席ニ入ルヤ

張氏 辜先生ハ酒ハ嗜ミテスカ、コレハ北京カラ來タ酒テ四十數年ノ  
貯ヘテス飲過ギテモ差支アリマセスト云ヒマス。

余 有難ウ、私ハ近頃健康ノ爲メニ酒ハ止メテ居リマスガ折角テス  
カラ少シ戴キマセウ。

吳慶脩 部長水ク吾杯ヲ管メタカラ辜先生ノ來ラレタ機會ニ郷里北京ノ  
古董ヲ贈マレル事モ良イネ。

張 モウ私ハ苦杯ヲ飲マヌゾ、サア黃サンハ乃父代リニ二人前タ。

蔣 私ハ陳炯明ノ亂ノ時ニハ惠州ニ、濟南事件ニハ濟南ニ、滿洲事  
件ノ時ニハ大連ニ、今度西北事件ノ時ハ西安ニ居ルト云フ様ニ  
廻リ合セガ愚イガ駐日大使ト云フ役目モ此ニ負ケヌ辛サダツタ  
ネ。

余 モウ對日關係ハ林内閣カラ漸次好轉シマスヨ、林兼備外相ノ外交

方針ハ如何テス。

張 結構テス、トコロガ中野正剛君ノ議論ハ亂暴テスネ。

黃 中野正剛氏ハ御承知ノ通り有名ナル政客デスカラ莫逆脱線スル事  
ヤ過激ニ亘ル事ハアルマイガ何シロ日本ノ民間團體ニハ可ナリ激  
烈ノガアルカラソレヲ代表シテ演説シタノデセウ。

張 然ウダ、西安事變ノ時ニハ日本ハ極メテ同情的態度ヲ執ラレテ我  
々モ有難ク思ツテ居ルガ上海居留民團ハ非道イモノダツタネ、日  
本ノ團體ト云フノハ皆斯ンナモノカネ。

ト云ヒテ苦笑シマシタ。

吳 民國テハ政府ガ國民ノ意志ヲ代表スル然ラザレバ永續キシナイ、  
然ルニ日本テハ過去ニ於テ往々ニシテ一部軍人ノ意志ニ依ツテ政

治外交ガ支配サレル嫌ガアリマス、日本ニ於テモ更ニ民意ニ即  
シタ政府ガ出來ルト良イネ、左スレバ中日外交ハ簡單ナモノデ  
ス。

トテ「デモクラシー」的ナ議論ヲシテ居マシタ。

余 日本ノ政治モ民意ヲ尊重シテ居リマス、一部軍人ノ過激ナル議  
論ヲ國策ニ採用シテ居タナラ東洋ハ今如何ナツテ居ルカ知ラヌ、  
日本ハ武家政治時代ヲ除ケバ政治ハ依然政治家ニ依ツテ爲サレ  
テ居リマス、此ノ點ハ民國人モ日本ノ政治家ノ苦衷ヲ知ツテ賞  
ヒタイモノデアル。

吳 所ガ民國テハ日本ヲ知ツテ居リ理解シテ居レバ、親日派ト云ハ  
レ可ナリ唐符ヲ受ケテ來マシタ汪精衛氏、唐有任氏、楊永泰氏  
等其ノ例デス。

30

0419

余 日本ニ於テモ日華親善ニ就テハ相當犠牲ヲ拂ツテ居リマスソレハ  
且ニ忍バネバナラヌ事デ覺悟モセネバナラヌノデス。  
張氏 私ハ親日派ダト云ハレルガ親日派デモ何デモナイヨ。  
ト云ヒテ笑ヒ、「デザートコース」ニ入ル少シ前ニ張氏曰ク

一昨日辜先生ト長時間ニ亙ツテ懇談シタイノデアアルガ民國ノ抗日  
排日ハ九、一八ヲ襖襪トシテ激烈トナツタノデアアル、日本ニ於テ不  
侵略ヲ表明セラレヌ限り我々ノ力テハ抗日排日ヲ絶滅スル事ハ出  
來ヌ、故ニ私ハ日本カラ積極的ニ滿洲問題ノ解決ヲ提案サレル事  
ヲ望ムモノデアアル、若シコノ問題ヲ現在取扱フコトガ困難ヲ伴フ  
ナラ暫ク不問ニ付スルモ良イデセウ、ソウスレバ富田ノ問題タル  
華北ニ於ケル政治工作ハ日本ニ於テ自發的ニ排除サレタイ、此ノ  
政治的解決ナクシテハ經濟提携ヲ議スルトモ民國人ハ怒ラク又形

31

0420



ヲ換ヘタル侵略ナリト誤解シテ受ケ付ケナイデアラウ、我々トシテハ日本ガ全面的ニ談セン欲スレバ共ニ全面的ニ談セン公然談セズトスレバ暫ク談セズトモ可ナリ、又當面ノ問題ニ付キ談セント欲スレバ又共ニ談ジテ可ナリ何時カ私ハ門司テ日本ノ或政治家ニ招待サレタ事ガアルガ河豚ヲ食スル節ソノ説明ニ曰ク、日本人ハ親友トテナケレバ共ニ河豚ヲ食ベヌト誠ニ意味ノアル言葉テス、日本ト民國ハ河豚ヲ共ニ食シ得ル程ノ友邦ニナル事ヲ希望スルモノデアアル左様ナレバ經濟提携モ可、攻守同盟モ可ナラン東洋ノ公敵ニ對シテ手ヲ携ヘ命ヲ捨テテ同フ事ガ出来ヨウ、此ノ點ヲ克ク傳ヘテ下サイ。

余 御話ハ克ク解リマシタ。今茲ニ病人アリト譬ヘヨウ、數種ノ病アリ其ノ病ニハ古キアリ新シキアリトスル良醫ハ恐ラク其ノ新シキ輕キヨリ着手スルデアラウ、一度ニ數種ノ藥ヲ投ズレバ却ツテ病人ノ貧

瘡ニナリ堪エサラシメル恐レガアリマス。

張 御尤デス。

黃代リテ日本語ヲ以テ

老人ノ見解テハ日華外交ノ紛糾ハ勿論九一八事件ヲ襍儀トスルモノナレドモソレ以前ニ種々ナル蓄積ガアツタ爲メニ延イテ九一八ノ爆發ヲ見タノデアリマス、其ノ後兩國國民トモ滿洲ヲ過リニ重大視シタル爲メ常ニ摩擦ヲ生ジテ居タノデアリマス、老人ハ之ヲ見兼ねテ日華外交ガ一日モ早く常軌ニ乘ル事ヲ希望スルノ餘リ其位ニ在ラザルヲ倍リツツモ此際専門家ヨリモ或ハ素人ガ反ツテ之ヲ打倒スルニ役ニ立チハシナイカト思ヒ昭和九年末ヨリ十年初メニ掛ケテ貴國ニ滞在シ終、汪兩氏始メ各方面トモ意見ノ交換シタ結果利ヲ棄テテ友邦ノ義ヲ重ズベキ事利ヲ争フ對立關係ヲ清算シ

テ共同目標ヲ國際共產ニ直ク事ヲ提唱シ聲明兩國當局ノ答ルル事  
トナツテ一時國民感情モ緩和シ外交モ漸次打開サレテ大使ノ交換  
福建浪人ノ召還貿易ノ振興經濟使節ノ交換共ニ實績モ擧ツタノデ  
アルガ其後ハ又華北問題ヲ惹起シタルハ誠ニ遺憾千萬トシテ居リ  
マス、民國ニ於テモ日華親善ノ犧牲ガアツタトノ事デスガ日本ニ  
於テモ此ニ類似シタル事ガアツタノデス。  
此等ノ犧牲並ニ其後ノ善後措置ハ獨リ日本國內ノ問題ナルニ止マ  
ラズ東洋平和ニ寄與スル所ガ多カッタテアリマス、此ヲ懷悵ニ日  
本ノ國論ハ愈々統一セラレ政治外交軍事共ニ一大轉換期ニ向ハン  
トシテ居リマス、現ニ局ニ當レル政治家ハ凡テ國民ニ良キ理解ガ  
アリ深キ同情ガアリマス、此機會ニ民國側ニ於テモ一昨日張部長  
ノ云ハルル様ニ

一 關稅ノ自主的改正  
ニ 飛行協定ノ締結  
三 心理的共同防共  
ノ用意ヲ有セラルルニ於テハ日本側ハ自發的ニ民國ニ對スル好意  
ヲ具體的ニ表示スル可能性ハ充分ニアリマス、之ニ對シテ民國側  
ガ呼應スルニ於テハ漸次兩國ノ感情ガ接近スルニ至ルデアラウ、  
然ラザレバ反對ニ意外ノ結果ヲ惹起スル恐れナキヲ俵シ雖イノデ  
アリマス、民國側ニ於テ所謂民國ニ誤解アリ又ハ惡意アリトセラ  
ルル者ノ言論ハ今尙モ煙草ヲ消シタル殘燐ノ如キ狀態ニアリ喫煙  
ニハ役ニ立タヌガ爆彈ニ近ツケバ爆發ノ導火線ニナリ得ルノデア  
リマス、茲ニ於テ老人ガ病ヲ冒シテ局面打開ヲ策スル爲メ日本ノ  
政情ヲ傳へ各位ノ高見ヲ叩キ日本側ニモ傳達スル爲メニ貴國ヲ訪

問シタ次第デアリマス。

宴會後高宗武氏ハ黃ニ對シ九月二十三日提出シタル五ヶ條ノ要求ニ就イテハ日本ニ於テ適宜處理サレル事ヲ希望スル旨ヲ屢々述べラレマシタ、

0425

二十六日張蕭林、杜月笙等ト會見シテ交渉ノ模様ニ付キ語ヒ合ヒ互ニ成功ヲ悦ビ合ヒタリ。

二十七日十一時杜月笙、周玉兩氏ニ伴ハレテ中央銀行上海分行總裁室ニ於テ孔祥熙(財政部長行政院長代理)ト會見シマシタ、南京滯在中魯知馮玉祥氏ヲ介シテ英美派親露派ト會見スル豫定ナリシガ氏國側デハ此際速慮スベキナリトノ意見多カリシ爲メ遂ニ南京デ孔氏ニ會見シナカツタノデアリマス、孔氏ハ多數ノ先客ヲ待タセテ先ニ余ト會見サレ一見シテ

36

習知ノ如キ親シミヲ以テ極メテ和カニ談笑ノ間ニ

孔 華先生南京デ大分待ツテ居マシタヨ、上海ニ出テ見レバ先生モ歸ヘラレテ居ルトノ事早速御會ヒシタノデス。

0426

余 南京デハ全管中トテ御多用ノ事デモアリ實ハ遠慮シマシタ。

孔 那埋那埋(矢野シマシタ)先生ハ臺灣御出身デスネ、民國ノ何處カラ移住サレタノデスカ。

余 然デス福建ノ泉州カラ移住シタ者デス。

孔 モウ何年ニナリマスカ。

余 鄭成功時代カラテスカラ二、三百年ニナリマス。

孔 先生ハ貴族院議員デ居ラレルカラ日本語ハ達者デセウ。

余 下手デス蠅ク方ハ良イ加減辨リマスガ喋ル方ハ不調法デス。

孔 不便デセウネ。

余 色々と特別ノ面倒ヲ見テ貰ツテ居マス此點日本人ニハ大國民的

37

襟度ガアリマス。

孔

臺灣ノ人口ハ何程デスカ漢族ハ

余

六百萬近クニナリマス、漢族ハ五百萬日本人トシテノ待遇ヲ受ケテ居リマス、民國籍人四、五萬居マスガ此モ等シク日本人ト變ラヌ保護ヲ受ケテ居リマス。

孔

其ハ結構デス、臺灣人モ祖先ハ民國人デス然ルニ克ク民國ニ來テハ亂暴ヲシテ困リマスネ、民國人ニ非ズトモ日本人デアアル日本人ニ非ズトモ黃色東洋人デアアル東洋人デアリナガラ互ニ惡戯ヲシ合フ事ハ良クナイネ。

余

此等ノ者ハ臺灣ニモ居堪ラヌ者デアリマス、故ニ浪人ト云フテナイカ此デ一律ニ臺灣人ヲ見ル事ハ不富テセウ我々ハ勿論爾餘六百萬人其ノ上ニ日本人一億近クノ者ハ民國ニ好意ヲ持ツモノデアリマス。

孔

日本ノ政情モ大部落付イタトノ事デスネ。

余

御蔭デ國論モ統一サレ 政治ニ外交ニ軍事ニ一大轉換期ニ直面シテ居マス、日華稅務ヲ増進シ乃至ハ建直スニハ恰好ノ時機デアリマス。

孔

先生ノ御來意ハ克ク聞キマシタ感謝シテ居リマス、併シ日本ハ民國ニ可ナリ無理ヲシテ來テ居マス冀東ノ脫稅ヲ武力デ擁護スル事ハ止メテ貰ヒタイネ、覇道ハ民國ノ受ケ取ル所デアアリマセヌ

ト云

ハルルノ豫テ準備セル私ノ主唱ニヨツテ復興シタ臺北孔子廟ノ寫

眞ヲ差上ゲテ

余

日本ニ於テハ尙東洋道德ヲ重ジテ居リマス先年私ガ貴國ニ來タ時ニモ蔣氏ニ孔子廟ノ復興ヲ御勸メシマシタ

孔

誠ニ結構デス、孔子ノ敎荒木大將ノ唱フル皇道ヲ以テ民國ニ瀛マレバ抗日排日ハ自ラ絶滅シマス、例ノ覇道ヲ以テスレバ民國ガ弱ル許リデナク英米露共ニ軍備ヲ急グ結果ヲ招キマス最近英國ハ香港新嘉坡等海軍根據地擴張ニ四億磅モ投ズル露國ハ極東ニ陸軍ヲ増減スル萬一事端ガ起ツタトシタラ日本モ困ルダラウ民國ガ傍杖ヲ喰ハサレ

デアル、若日本人ニシテ民國人ノ最モ熱烈ニ希望スル統一ヲ助成シ建設ニ力ヲ藉シタナラバ民國人ハ再ビ日露戰役ノ如キ氣持ヲ以テ日人ヲ尊敬シ感謝スルデアラウ、我々モ更ニ數年建設ヲ爲セバ武力ヲモ備ヘテ來其ノ時日本ニ報復スルデアラウトノ疑ヒ持ツ者ガアルトノ事デアアル、ソノ時ハ決シテ拳ヲ以テ拳ニ報ユル事ハシナイデアアラウ

0430

余 兄弟互ニ報復スル事ニナレバ見物人ヲ喜バス事ハ請合デス、斯如キ不祥ノ繰返サラヌ事ヲ希望スルモノデアアル、今茲ニ病人アリトシマス數種ノ病アルモノト假定シマス古キアリ新シキアリ治メ易キアリ難治ノモノアリトシマス良醫ハ必ズヤ治シ易キ新キモノヨリ着手スルデアラウ決シテ直チニ健康體ニ回復セシムル爲メニ一時ニ數種ノ藥ヲ投ジナイデアラウ、日本側デ希望シ民國ニ有益無害ノ事柄三件

41

ル事ハ確カデス、ソレ以前ニ中日兩國ガ衝突モスレバ英米露共ニ喜ブ事ト思フネ

0429

余 斯如キハ狼狽共ニ傷キ英米露ガ漁夫ノ利ヲ得ル事ニナリマス、兩國國民等シク慎マネバナラヌ事デス

孔 要スルニ茲ニ人アリ友人トノ取引シテ金儲ケモシタイ時ニハ頭モ擲ル此デハ人ヲシテ悦服セシメル事ガ出來ヌダラウ、之ニ反シテ曾テ俄國ガ民國ヲ侵略シタ時ニ日本ガ傾國的一戰ヲ試ミ滿洲ヲ取返シテ吳レタ事ハ先生御説ノ通りデスガソノ時民國人ハ間牒モ務メタ先鋒ニモナツタ輸卒ニモナツタデハナイカ、其ノ後民國人ハ日本人ノ義俠ニ感ジ日本ニ倣フ可ク多クノ留學生ヲ送りマシタ然ルニ九一八事件以來ハ今日ノ如クニ逆ニ排日抗日ヲ爲シ政府ガ抑壓スルニモ方法ナキニ至ツタノハ何故デアラウカ、日本トシテモ反省シテ見ル可キ

40

克ク張外交部長ト懇談シマシタ之レニ應ズル用意ガ民國ニアリトセ  
バ日本ニ於テモ民國ニ對シ好意ヲ具體的ニ示ス可能性ガ充分ニアリ  
マス、ソノ際民國ニ於テ之ニ呼應スル事ガ出來マスカ

孔

勿論出來マス好意ヲ具體的ニ示サレタル時ハ當方ニ於テモ當然好意  
ヲ以テ酬ユルコトハ當然ノコトデス、若シ日本ガ民國ニ對シ絶對ニ  
侵略セナイ事ヲ表示セラルル時ハ民國人ハ日本人ト共ニ其ノ敵ニ對  
シ命ヲ捨テ戰フデアラウ

何ニシテモ當面ノ問題トシテハ冀東政府ノ自主的取消察北兵ノ撤回  
冀察政府ノ干涉等少クトモ關内ノ工作ヲ止メラルル事ヲ希望シテ止  
マザル次第デアアル、私ノ意ノアルトコロヲ充分ニ日本ノ政治家ニ傳  
エラレン事ヲ望ミマス、日本ニ於テ民國ノ態度ヲ詳シテ克ク英米派  
又ハ親露派トカ云フガ結局ハ *Blood is thicker than water* ト云

42

0431

フ言葉ノ通りデソレハ單ニ祀憂ニ終ル事ヲ説ブモノデアリマス

孔氏向返ツテ杜先生周君私ハ忙シイノデ御接待ハ出來ヌカラ克ク御老人  
ノ面倒ヲ見テ上げて下サイト言付ケテ後余ニ御不便ノ事アラバ遠慮ナシ  
ニ杜周兩氏ニ言付ケテ下サイ何卒兩國ノ爲メニ偏ヘニ御健康ヲ祈リ再會  
ヲ望ムノ言葉ヲ交シテ辭去シマシタ會談約四十分ヲ要シマシタ、而シテ  
二十八日夜ニ日本人側三月二日夜ニハ民國側要人ヲ招待シ客トシテノ禮  
ヲ盡シテ三月三日上海丸ニテ上海ヲ出帆歸國ノ途ニ就キ五日神戸ニ入港  
シマシタ、一日夜杜月笙張嘯林王少爺錢永銘氏ノ主催スル送別宴ニハ商  
震、何子鏡、余漢謀、周作氏、徐新六、吳滄齋、虞洽卿、徐葉封等六七十名ノ多數ニ  
達シ舊曆新年ニハ珍シキ集會デアリマシタ

0432

43

結 論

此度余ガ約一ヶ月間民國ニ滞在シ觀察シタル結果最モ顯著ナル事實トシテ認メタコトハ國民全般ニ亘ル統一ニ對スル願念ノ鞏固ナル事デアリマス、其ノ勢力タルヤ黄河ノ水ヲ決シタルガ如ク苟モ之ガ障礙トナル可キ如何ナル行動モ之ヲ阻止スル事ガ出來ルモノト見ラレルノデアリマス。民國デ八九、一八事件以來ハ日本ノ迫力ニ對抗スル事ヲ目標トシ抗日標識ノ下ニ國民ノ注意ヲ集中シタノデアルガ所謂新生活運動開始以來ハ禮儀廉恥忠孝節義等舊道德ニ歸レト云フ復古維新ノ精神ガ瀾漫シテ居リマス是日本ニ於ケル明治維新ト相髣髴スル所ガアリマス。此點ハ隣邦日本トシテ認識ヲ深クスル必要ガアルコトト思ヒマス。

次ニ清朝末期ヨリ以夷制夷ノ外交方針ヲ採リ其場其場ヲ彌縫シタ民國ハ現在トナツテハ何レノ國ナリトモ特殊關係ヲ結ブベキニ非ズ救亡圖存ノ

道ハ一ニ自力更生自力建設ニ在ル事ニ覺醒シタル點ハ注目ニ値ヒシマス此等ハ或ハ論說ニ或ハ要人ノ談話ノ間ニ窺ハレマス、最近四川省中心ニ民國ノ所謂國家主義運動ガ起リツツアリ此ガ何等カノ指導精神ヲ以テ或ハ財界ヲ傾倒シツツ國民黨ノ勢力範圍ニ還食ヲ試ミツツアル事ハ國民政府ノ黨外人登用、來ル十一月ノ國民大會召集、憲法頒布等ヨリ見テ明カデアリマス。黨ヲ以テ國ヲ治ムルノ不當ナル事ノ發見ニ依リ民國國粹保存ノ必要ヲ直感セシメ全國的ニ國民運動ガ起リ掛ケテ居リ此ガヤガテ先ニ配置サレタル人民戦線ヲ破壊スルニ至ルモノト觀察サレマス。此ハ積極的ノ運動デハアルガ消極的ニハ以夷制夷ガ民國ヲ瓜分ニ導ク危險充分ニアル事ヲ認識シタモノノ如クデアリマス。

最近滿洲國ニ對スル民國人ノ認識ハ漸次好轉シツツアリ結局關内ノ確保ヲ以テ完全ニ統一シタルモノト爲スガ如クニ觀察セララルル際若日本ガ列

國ニ先ンジテ民國ノ統一ヲ援助シ經濟建設ニ力ヲ藉シタナラバ永ラク唱  
ヘ理想トセララルル日華滿三國ノ經濟連鎖攻守同盟ノ域ニ達シ共ニ東洋文  
化ヲ再建設スル機運ニ至ル可キモノト信ズルノデアリマス。

附 記

本記録ハ文責秘書黃逢平ニ在リ

0435